

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 109 号

武道授業の武道必修化前後における学習成果の変化

(Changes in learning outcomes before and after the adoption of mandatory martial arts classes)

関 伸夫 (せき のぶお)

博士 (スポーツ健康科学)

### 論文内容の要旨

本研究は、中学校保健体育の武道授業において、生徒が学習内容に関して身に付いたと感じたことを学習成果と捉え、第1に必修化前と必修化後の学習成果と授業条件の変化を明らかにすること、第2に学習成果の感じ方、及び学んだ授業における授業条件が学習成果に及ぼす影響について男女別に明らかにすることを目的とした。必修化前後で学習成果と授業条件を比較した結果、必修化後に受講した者の方が優れた学習成果を示し、授業の雰囲気は明るくなったと回答する者、ゲーム的要素を取り入れる指導方法の工夫がなされたと回答する者、運動時間の確保できていると回答する者の割合が高かった。学習成果に影響を及ぼす授業条件を検討した結果、「授業の雰囲気」と「指導方法の工夫」の有意に影響を及ぼし、明るい雰囲気の授業とゲーム的な要素を取り入れる授業を受講した者ほど高い学習成果を示した。これらのことから、武道の必修化によって学習成果と授業条件に変化が確認され、必修化後に受講した者の方が高い学習成果を示した。必修化後では授業の雰囲気は明るく、ゲーム的要素を取り入れる指導方法の工夫がなされ、運動時間の確保が行われるようになった。一方で、指導の段階は基本的技能の習得が中心となり簡易な試合まで展開されない様子が明らかとなった。また、明るい雰囲気の授業とゲーム的な要素を取り入れる授業の工夫が高い学習成果につながる可能性及び学習成果の感じ方と学習成果に影響を及ぼす主な授業条件には男女による違いがあることが示された。